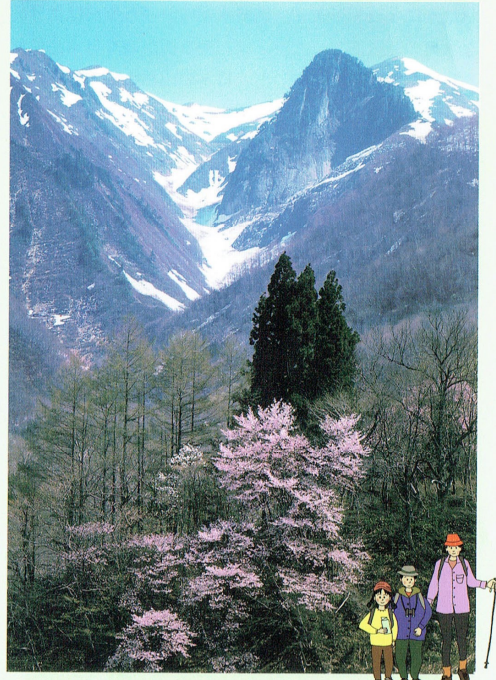


雪国越後 南魚沼の里 清水と巻機山 自然探勝ガイドマップ



新潟県南魚沼地域振興局

豪雪に生きる清水

標高600mの清水は冬の積雪が4mを超えることは普通で、年の5ヶ月近くは雪に閉ざされます。しかし、雪消えとともに訪れる春の息吹を受けて、人も自然も喜びに躍動します。清水がもっとも輝くときです。雪は山菜という恵みをもたらしてくれます。山菜は今でも住民の生活の糧となり、文化として定着しています。新緑がまぶしい清水にも登山者が訪れ、清水周辺は多様な自然が楽しめる最適なシーズンに入ります。巻機山が紅葉に染まるころ、今度はキノコや木の実の収穫季節が訪れます。清水を訪れる楽しみは、地元の山の幸を、自然豊かな地で賞味できることです。紅葉が巻機山を駆け下って清水に到達するころ、村は来るべき雪の季節に備えて冬支度に入っていきます。



雪に埋まる清水 (3月下旬)



西谷後からの巻機山

清水を守り続けるブナの森

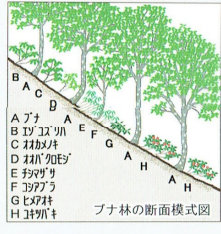
清水集落の裏手に広がる後山のブナの森は集落を雪崩から守るため、昔から大切に残されてきました。雪国の春の訪れは、ブナの芽吹きから始まります。雄花と雌花が一斉に咲き、毛玉のような雄花が冬芽の鱗片に混じって、残雪上にばらまかれます。雌花はクリのイガにあたる殻斗をつくり、この中からソバグリの形をした実がはじけ落ち、野生動物の貴重な食料源になります。学名 *Fagus crenata* (ファークス グレナータ) の *Fagus* は、ギリシャ語の「食べられる」という意味です。成り年と不作の年が交互にきて、6~7年の周期で大豊作が訪れますが、生き残れる実生は1%にも及びません。ここのブナの森は直径1m以上の大木が多く、雪の圧力で根曲がりした幹も目立ちます。樹皮は灰色で明るく落ち着いた雰囲気を感じられます。これだけ見事な森は、二次林が多い巻機山麓ではここだけです。林内には雪圧に耐えるしなやかな枝をもつ常緑のユキツバキやエゾユズリハ、ヒメアオキなどの低木が茂っています。太い幹にはキツツキが開けた丸い穴が見つかります。ほかの野鳥やムササビなどが巣に利用することもあります。幹に細い傷跡があれば、それはツキノワグマが幹を滑り降りるときにつけた爪跡です。ブナの森は多くの野生動物も養う恵みの森なのです。



ねぐらのムササビ



ツキノワグマの爪跡



ブナ林の断面模式図



後山のブナ林

前山の植生の棲み分け

集落の登川対岸の尾根斜面にも、広葉樹のすばらしい天然林があります。集落裏手の後山に対して前山と呼んでいます。ここはブナやミズナラを中心にカエデの仲間も混じり、春の新緑から秋の紅葉まで、美しい季節の移ろいを見せてくれます。後山と違ってミズナラが多いの

清水自然探勝ガイドマップ

清水自然探勝モデルコース

- 威守松山コース [中級向]
 - 清水バス停 50分 → 35分
 - A25番鉄塔 70分 → 50分
 - 威守松山 60分 → 80分
 - 飲用沢徒渉点 30分 → 40分
 - 桜坂林道 25分 → 20分
 - 清水バス停 25分 → 20分
- 清水街道コース [一般向]
 - 清水バス停 45分 → 45分
 - 大倉堰堤口 40分 → 30分
 - B30番鉄塔 35分 → 40分
 - B27番鉄塔 25分 → 30分
 - 城の腰 15分 → 15分
 - 清水バス停 15分 → 15分
- 寺屋敷コース [一般向]
 - 清水バス停 25分 → 20分
 - イガシラ 15分 → 10分
 - 寺屋敷 15分 → 10分
 - 威守松尾根 25分 → 30分
 - 柄沢林道 30分 → 25分
 - A27番鉄塔 25分 → 25分

コース
 --- コース
 P : 駐車場
 T : トイレ
 O : ビューポイント



ムササビ

ムササビ

イワハゼ

イワハゼ

イワハゼ

イワハゼ

イワハゼ

イワハゼ

イワハゼ

イワハゼ

イワハゼ

イワハゼ

イワハゼ

溪畔林の宿命

集落の前を流れる登川の河原には、美しい樹形の溪畔林が見られます。これはシロヤナギを中心とした林です。河原は常に洪水にさらされる不安定な立地ですが、洪水の頻度が少ないとヤナギ類が入り込み、環境の安定が続くと大木に発達します。しかし、ここのシロヤナギ林は1985年の洪水で打撃を受け、今ある林はその名残りです。付近には再生中のヤナギ林も見られます。破壊と再生の繰り返し…それが溪畔林の宿命なのです。



登川のシロヤナギ林

外っ原周辺の環境と景観

外っ原はスギの植林を除いて高木がありません。もともとここは扇状地で、古い時代に米子沢や割引沢などの山側で岩石の崩落が相次ぎ、これらの巨岩が押し出されて外っ原の原型を造ったと考えられています。このため外っ原は地味が悪く、いまだに高木が育たないのです。しかし、山際は土壌がたまって棚田が開かれ、イガシラの棚田では巻機山の山岳景観と一体になった、日本でも数少ない棚田景観が見られます。



イガシラの棚田と巻機山

交通ガイド

● 清水までの所要時間
 関越道六日町ICから車30分
 関越道湯沢ICから車20分
 JR六日町駅からタクシー25分

● 湯沢ICからタクシー20分
 ● バス(六日町~清水) * 湯沢国道経由
 六日町駅発 6:50 *12:50 *17:45
 清水発 7:25 13:45 *18:40

● 清水民宿ご案内
 小野塚 ☎025-782-0924
 清水屋 ☎025-782-1948
 泉屋 ☎025-782-3478
 上田屋 ☎025-782-3403
 やまご ☎025-782-3402
 雲天 ☎025-782-3473

● 巻機山山麓キャンプ場ご案内
 ● 巻機山のダイナミックな眺望を満喫しながら、快適なキャンプをお楽しみください。
 キャンプ場開設期間 / 5月中旬~10月下旬
 中央管理棟(会議室・休憩室) / 定員50名
 ● お申し込み・お問い合わせ
 清水生産森林組合 ☎025-782-3410

お問い合わせ
 南魚沼市商工観光課 ☎025-782-0255
 〒949-6492 新潟県南魚沼市塩沢1370-1
<http://www.city.minamiuonuma.niigata.jp/>

雪に支配される巻機山の自然

かつて機織りが盛んだったころの魚沼地方周辺の人々は、巻機山を機織りの守護神として生業の支えにしてきました。たしかに山頂一帯の繊細かつ優美な容姿は、まさに機織り神そのものといえます。しかし、南魚沼の里から望む巻機山は、荒々しさだけが目立つ険しい山です。優しさときびしさを合わせ持つ巻機山の自然を創造したものは、氷河時代の気候と冬の季節風がもたらす多量の雪です。山頂一帯の積雪は10~30m以上になると推定されています。この積雪が雪前や雪圧といった作用で自然を磨きあげ、今日の荒々しくも美しい巻機山を創りあげたのです。

巻機山の自然を代表する雪田草原

清水から二七巻機まで登ると、眼前に緑の草原が広がります。その美しさは思わず息をのむほどです。これは雪田草原と呼ばれる湿原の一種です。多雪によって長期間積雪に覆われるところでは、植物の生育する期間が短く、また、雪解けが続いて過湿状態におかれます。このような環境では樹木類は入り込めず、夏季の短期間でも生育できるスマガヤなどの草本植物で占められる湿性草原が形成されます。雪田草原こそが巻機山の魅力を代表する自然なのです。

雪田草原を飾る池塘の不思議

巻機山にとっての池塘は、風景に輝きと潤いを与えるくれるひとしずくの真珠です。池塘とは湿原の中の小池を指し、地下水が地表付近まで達した平坦地が微傾斜地によく見られます。このような立地にわずかな窪地があると、地下水から染み出た水がたまりやすくなります。水たまりの周りでは水湿を好む植物が繁殖し、その植物遺体が毎年堆積して土壌を積み上げます。水底は堆積物がありませから、水たまりはだんだん深くなって池塘に成長すると考えられています。

景観に深みを与えるオオシラビソ林の謎

巻機山の上部は亜高山帯ですが、ブナ林を抜けるとミヤマナラなどの低木林になってしまいます。まるで高山のように見えるため、このエリアを偽高山帯と呼んでいます。ところが、山頂付近にはオオシラビソ林が少数分布し、雪田草原との緩がなんとも見事です。なぜ一部にしかオオシラビソ林が存在しないのかは未だ謎ですが、最終氷期以後、大陸型の針葉樹林が温暖多雪化に伴って消滅し、その空白域に別の針葉樹が復活した…それが、多雪に適応したオオシラビソだったのです。しかし、日本海に面した脊梁山脈では気象や地形の要因が絡んで、まだ復活していないか、ようやくその途についた状況らしいのです。それだけに巻機山のオオシラビソ林は貴重な存在といえます。



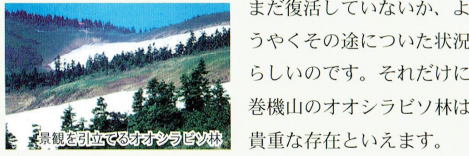
雪前と雪圧に耐える(犬谷目から)



雪田草原が美しい山頂一帯

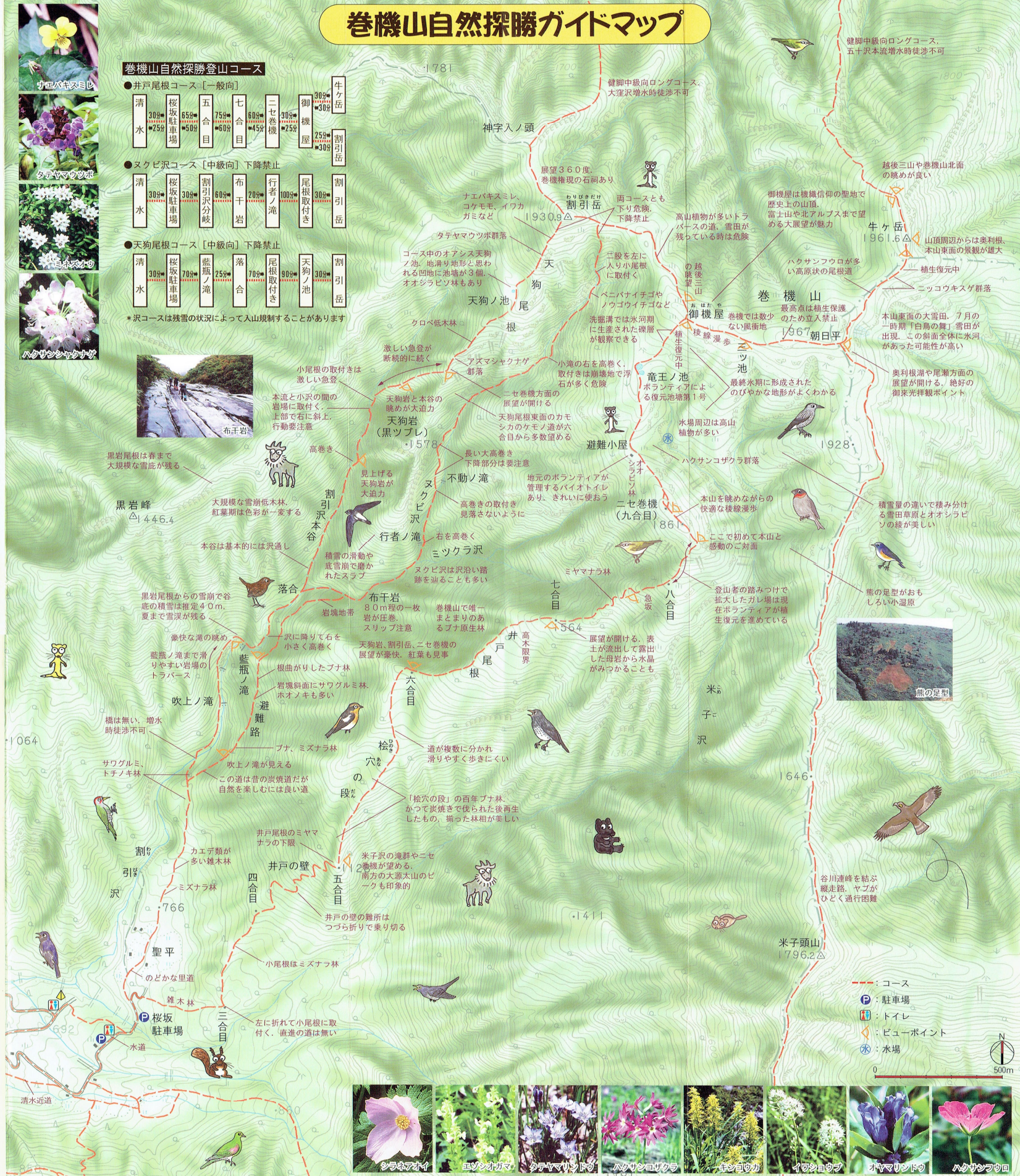


三ツ池と谷川連峰



景観を深みを与えるオオシラビソ林

巻機山自然探勝ガイドマップ



巻機山に氷河があった？

信じられない話ですが、巻機山に氷河があった可能性は高いのです。本山東面は秋口まで雪が残り、斜面全体を見渡すと浅いカル状地形になっています。最終氷期の5~6万年前は世界的な氷河の発達期でしたが、まだ海面が高く日本海に對馬暖流が流入していました。日本の山岳の降雪量も膨大で、北アルプスの檜谷では横尾付近まで氷河が来ていたほどです。今でも積雪が30m超と推定される本山東面に氷河があってもおかしくはないのです。



氷河地形の可能性のある本山東面

のびやかな山頂地形の秘密

山頂周辺斜面にみられるのびやかな地形は、考えてみれば不思議です。最終氷期の2万年ほど前は海面が下がって日本海は閉ざされ、降雪量はぐっと減っていました。山頂付近は堆積岩が乗っています。それが寒冷な凍結破砕作用を受けて岩屑になり、さらに霜柱や氷の凍結融解作用で岩屑がズルズルと移動しながら斜面を滑らかにしていったのです。



のびやかな地形は氷河時代の遺物

お花畑のいろいろ

雪田草原の代表は湿り気を好むハクサンコザクラやワイチョウなど。ニッコウキスゲやコバイケイソウは適湿な雪田草原に。広い尾根上にはハクサンフクロやキオンなどの高茎草原が見られます。風当たりの強い風衝地にはミネズオウ、ガンコウランなどの矮性低木が地を這い、安定した崩壊地にはナエバキスミレやタテヤマウツボが群落を作っています。環境による植物の違いを知るのも楽しいものです。



ニッコウキスゲのお花畑

巻機山の美しい景観は ボランティアに支えられている

かつての巻機山は、登山者の踏みつけで植生が破壊され、裸地化と浸食の拡大、池塘破壊などを誘発していました。これを危惧した財団法人日本ナショナルトラストと東京農業大学自然環境保全学研究室は、地元と提携しボランティアによる保全活動を立ち上げました。1977年のことです。活動は登山道整備や池塘復元、そして植生復元に及びました。植生復元の仕事は地道です。成果が表われ始めたのは10数年経ってからです。破壊された池塘もすべて水面が復活し、青空を映えています。今、皆さんが感動して眺めている巻機山の風景は、こうしてよみがえったのです。このことを心の片隅に入れて、巻機山の景観を楽しんでください。



木道整備に精を出す、前例のない池塘復元に挑戦、主砂に埋った無惨な池塘、水面の輝きが戻った池塘

この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分の1地形図を複製したものである。(承認番号)平17 北復 第233号

編集=財団法人日本ナショナルトラスト